仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.316

2022.7.10

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

イシガレイは外海へ

■イシガレイ稚魚は外海へ移動か

今回の調査では，イシガレイとヌマガレイの交雑個体が潟湖内で1匹採集されたのみであった（Fig.1）。５，６月の調査で，イシガレイ稚魚は大きさから２つのグループに分けられると考えた（レポートNo.309，No.313参照）。その際の小型のグループはまだ蒲生干潟に残っている大きさと思われるが，採集することはできなかった。

七北田川河口で，ヒラメの稚魚を採集した（Fig.2）。Fig.1の交雑個体とヒラメは同じ左側に目があるが，ヒラメの方が口が大きいので区別できる。

（Fig.1　イシガレイとヌマガレイの交雑個体）

（Fig.2　ヒラメの稚魚）

■蒲生上空で舞うコアジサシ

蒲生干潟では，１９９０年までコアジサシが集団営巣地を作っていたが，その後確認されなくなった。しかし震災後，砂浜が回復するとともにコアジサシが飛来し営巣する姿も見られるようになった。

今回の調査では，空中を舞いホバリングから水中へダイビングする姿を観察できた（Fig.3，4）。

（Fig.3　潟湖の上を飛ぶコアジサシ）

（Fig.4　七北田川河口の上を飛ぶコアジサシ）

（佐藤　賢治）